

# 令和7年度第2回板橋グリーンカレッジ運営協議会会議録

令和7年12月18日（木）  
グリーンカレッジホール

【開会】15時00分

(事務局)	<p>皆様こんにちは。本日はお忙しいところご出席くださいまして誠にありがとうございます。ただいまより、令和7年度第2回板橋グリーンカレッジ運営協議会を開会いたします。</p> <p>本協議会は、板橋グリーンカレッジ大学校及び大学院事業の円滑な運営を図ることを目的に開催するものでございます。会議録を作成する関係で、議事の内容を録音させていただいておりますのでよろしくお願ひいたします。</p> <p>また、ご発言いただく際には、事務局がマイクをお持ちしますので、マイクをご使用いただきますようにお願いいたします。それでは議題に入る前に資料の確認をさせていただければと思います。</p> <p>資料1-1 「令和7年度板橋グリーンカレッジ公開講座について」</p> <p>資料1-2 「令和7年度板橋グリーンカレッジ公開講座アンケート集計結果」</p> <p>資料1-3 「令和7年度板橋グリーンカレッジ公開講座チラシ」</p> <p>資料2 「令和7年度板橋グリーンカレッジ前期アンケート集計結果」</p> <p>資料3 「板橋グリーンカレッジポータルサイトについて」</p> <p>資料4 「令和8年度板橋グリーンカレッジ受講生募集について」</p> <p>資料5-1 「令和8年度板橋グリーンカレッジ1年生（前期）講義概要」</p> <p>資料5-2 「令和8年度板橋グリーンカレッジ2年生（前期）講義概要」</p> <p>資料5-3 「令和8年度板橋グリーンカレッジ大学院年間予定表」</p> <p>参考1 「板橋グリーンカレッジ運営要綱」</p> <p>参考2 「令和7年度板橋グリーンカレッジ大学校・大学院実施要領」</p> <p>参考3 「板橋グリーンカレッジ運営協議会運営要綱」</p> <p>以上でございます。不足がありましたら事務局までお知らせ願います。</p> <p>それでは会に先立ちまして、委員の皆様をご紹介させていただきます。本協議会は、運営協議会運営要綱第3条に基づきまして、区内の大学関係者、学識関係者、区民の代表、板橋グリーンカレッジOB会の代表者、区職員の合計8名で構成しております。</p> <p>～委員紹介～</p> <p>以上でございます。よろしくお願いします。</p> <p>それでは、早速議事に移ります。議事進行につきましては、議長よろしくお願いいたします。</p>
(議長)	<p>よろしくお願いします。初めに本協議会運営要綱第6条第2項により、定足数は半数以上となっておりますが、本日は7名の出席がございますので有</p>

	<p>効に成立していることを申し伝えさせていただきます。また、本日傍聴者は0名ということありますのであわせて報告をいたします。それではお手元に配付しております次第に従って議事を進めて参ります。</p> <p>まず、資料1「令和7年度板橋グリーンカレッジ公開講座について」の報告を事務局よりお願いします。</p> <p>(事務局) それでは、ご報告をさせていただきます。資料1-1をご覧いただければと思います。令和7年度板橋グリーンカレッジ公開講座についてご報告をさせていただきます。令和6年度から多世代化した板橋グリーンカレッジの周知を図ることを目的に、令和6年度に引き続き板橋グリーンカレッジ公開講座を実施させていただきました。まず項番1、実施概要でございますが、今年度は東京都国際工科専門職大学で講師をされています、石山謙先生をお招きいたしまして、「地球科学」をテーマに3回の連続講座を実施させていただきました。募集定員100名のところ92名の方にご応募いただきまして、60歳未満の方は13名、60歳以上の方は66名といった内訳でございました。今回は、高校生以下の受講料を無料とさせていただいたところ、20歳未満の方は7名ご応募いただきました。また、当日は83名の方にご参加いただきました。</p> <p>次の資料1-2「アンケート結果について」でございます。資料1-2をご覧ください。満足度について聞いたところ、96.7%の受講生の方から「とても満足」「概ね満足」というご回答をいただいたところでございます。また、太陽系や化石、地震など地球科学の様々なトピックについて、先生のご経験や研究内容を交えたお話をしていただき、皆様に大変ご好評をいただいたところでございます。今後受講してみたい内容等、いただいたご意見を活かしながら、引き続き公開講座を実施してまいりたいと考えております。</p> <p>資料1-3に案内チラシをご参考までに添付させていただいております。説明については割愛させていただきます。資料1についてのご説明は以上になります。</p> <p>(議長) ありがとうございます。資料1の説明が終わりました。これに関してご意見、ご質問のある方はご発言ください。</p> <p>よろしいでしょうか。後でまた戻ってもいいですので、とりあえず次に移ります。続きまして、資料2「令和7年度板橋グリーンカレッジ前期アンケート集計結果」の説明を事務局からお願いします。</p> <p>(事務局) 続きまして、資料2をご覧ください。令和7年度板橋グリーンカレッジ前期アンケート集計結果についてご報告をさせていただきます。グリーンカレッジでは1年生及び2年生の前期日程終了時に、半期分のアンケートをとつておりまして、資料はその結果をまとめたものとなっております。</p> <p>まず、1年生のアンケート結果についてご説明させていただきます。めく</p>
--	---

って1ページをご覧いただければと思います。こちらの回収率については65%というふうになっております。設問1では、受講した目的についてご説明させていただいております。選択肢③「日々を有意義に過ごすため」、選択肢①「学習意欲を満たすため」の順で多くご回答いただいているところでございます。その結果として、質問2「受講して得られたこと」について、選択肢①「知識を得ることができた」、選択肢③「生活のリズムや充実感が生まれた」という方が多く、学習意欲や日々の充実感等で満足度が高い結果というふうに受けとめております。その一方、設問1で選択肢②「仲間づくり・交流のため」との回答が2%ある中で、設問2の選択肢②「友人ができた・交友関係が広がった」との回答については0%となっておりますので、受講生同士の交流について、今後はグループワーク等の促進などの検討を進めてまいりたいと考えているところでございます。続いて、設問4では年代、設問5ではご職業について質問させていただいております。年齢制限をなくしたことにより、50代以下の方もいらっしゃるような状況でございます。属性としては、専業主婦（夫）の方、パートやアルバイトの方が多くいらっしゃるところでございます。平日の日中の講義が多いため、会社員、学生の方についてはなかなかご参加が難しい状況なのかなというふうに受けとめております。続いて、2ページ目までの設問6でございますが、各講義の満足度について質問をさせていただいているところでございます。どの講義も大多数の方にご満足いただけた結果というふうに受けとめております。また3ページ目では、設問7「今後受講したい分野」についてご質問させていただいております。「心理学」、「歴史」、「健康」が特に多い結果となっております。各講義の満足度と受講したい分野について、いただいたご意見をもとに、今後の講義内容を精査してまいりたいと考えているところでございます。設問8では、グリーンカレッジに関するご意見、ご要望でございます。欠席時のフォローなどの運用面や、グループワークや質疑応答などの講義内容についてご意見をいただいておりますので、いただいたご意見を参考に今後改善できるよう検討してまいりたいと考えております。

次に、2年生のアンケート結果についてご説明をさせていただきます。4ページ目をご覧いただければと思います。こちら回収率は45.50%というふうになっております。設問1では、受講した目的についてご質問させていただいております。選択肢①「学習意欲を満たすため」、選択肢③「日々を有意義に過ごすため」の順で多い結果となっておりまして、その結果として、設問2「受講して得られたこと」について、選択肢①「知識を得ることができた」、選択肢③「生活のリズムや充実感が生まれた」という方が多く、学習意欲や日々の充実感等の満足度が高い結果というふうに受けとめております。続いて、設問4では年代、設問5ではご職業について質問をさせていただいております。50代以下の方もいらっしゃるところでございますが、令和6年度から年齢制限を撤廃後初めての1年生が進級した結果となっておりますので、属性は1年生と同様に専業主婦（夫）、パート、アルバイトの方が多くい

	<p>らっしゃるということが分かりました。以降6ページ目まで、設問6「各講義の満足度」について質問しております。どの講義も概ね大多数の方にご満足いただけた結果というふうに受けとめております。また、7ページ目では、設問7「今後受講したい分野」について質問させていただいておりまして、「歴史」、「天文学」、「芸術」が特に多い結果となっております。各講義の満足度と受講したい分野について、いただいたご意見をもとに、今後講義内容を精査してまいりたいと考えております。設問8はグリーンカレッジに関するご意見ご要望でございます。講義日程など運用面等についていただいたご意見が多く、今後改善できるよう検討してまいりたいと考えております。大学校下半期のアンケートについては、後期日程終了後に実施する予定でございます。大学院については1年間の日程終了後にアンケートを実施する予定でございます。資料2の説明については以上とさせていただきます。</p>
(議長)	ありがとうございます。資料2の説明が終わりました。これに関してご質問、ご意見のある方はご発言ください
(委員)	幾つかありますので、ひとつずつ伺います。まず、このアンケートの結果は各講師にはフィードバックはされているのでしょうか。
(事務局)	はい。各講師の方にはお伝えさせていただいております。
(委員)	内容については、この集計結果ですか。それとも、アンケートの生の紙ですか。集計結果ということは、ここに書いてあるこういった大変満足とか、それが何%だったとかご本人に言っているわけですね。
(事務局)	この内容についてそのままお伝えさせていただいております。
(委員)	それによって、この結果について講師の方々がそれぞれ思うところがあると思うのですが、私がざっと見て着目したのは、満足した方じやなくて、不満だった方です。特にこの中で不満が多かった講座について、具体的に言うと、3番と6番ですね。3番の不満を合計すると約20%近くになりますね。そのコメントのところを見ると、「講座と呼べるものではなかった」とか、「講義の発音や歯切れが悪く何を話しているのか、聞き取りが非常に困難だった」とか、「聞いていて疲れた」。こういったあたりは、ご本人がこれを読んでいたら、それなりに次は改善されると思います。次はというのは、ここでやるに關係なく、このぐらいの方ですと、どこかいろんなところから声がかかってお話をしていると思うので、それに期待したいなど。それから、6番についても、「具体的な移住の話を期待していたけど目新しい内容もなかつた」、「話が淡々としていて眠くなつた」、「内容が不明瞭」、この辺りはご本人の説明の仕方の点もありますが、例えば、タイトルの設定の仕方とか、お話

	<p>いただく内容についてのショートメッセージの書き方とか、事務局においても、対応可能な部分も幾つかあるかなと思いまして、ぜひ次回以降このあたりのところを参考にして作成いただきたいなと思っています。最後の意見になりましたけど、私の質問はフィードバックされていますかという意見ですので、それについてはもうすでに回答いただいたので、もう結構です。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。確かに講義内容についてというところが、多分受講される方が思っていたものの内容と違っていたというところがあつて、ご不満に思われた方もいらっしゃったのかなと思いますので、その辺の表現については事務局のほうでも気をつけながら進めさせていただきたいと思います。ご意見ありがとうございます。</p>
(委員)	<p>それから2つ目。大学校2年生の方の6ページです。8番プログラミング。1年前の協議会のときに、年間スケジュールのカリキュラムの中で、今年の初めての試みとして、パソコンまたはタブレットを持ち込んで実際にやりながら進めるという、どんな問題が出るか、うまくいかどうかとかそういう話し合いをした科目ですが、それに対して満足度のパーセントが出ていますけれども、事務局から見たコメントが何もついてないのがどうしたのかなと。参加者の方から満足とは書いてあるけれども、こういうところを改善して欲しいとか、あと不満足の方もこういう点はよかつたけどここはまずかったみたいなね。何か具体的なものがあったのではないかと思うのと、去年のこの場での懸念は、パソコンなどの操作に慣れてなくて、うまく先に進めなくて、手挙げてこれ動かないのですがみたいな質問が出て、一方でちゃんとできている人はウェイティング、時間の浪費になっちゃってうまくいかない可能性がある。そういうことも心配したのですが、それは実際のところは、そういうことはあったのかなかったのかを含めて教えていただきたい。</p>
(事務局)	<p>ご質問ありがとうございます。まず受講生の方からいただいた意見としては、こちらのアンケートのほうには載っていないですけれども、グリーンカレッジホールの職員のほうで直接いただいたご意見といたしまして、満足といった方も一定数はいらっしゃいますが、やはりパソコンとかを皆様が持ち込まれるというところがございますので、電源等の確保を施設側で欲しいといったご意見だったりとかですね、あとデバイス、パソコンであつたりタブレットをお持ちでない方も一定数受講生の方にいらっしゃいましたので、そういう方のフォローワーク体制についてどうにかして欲しいといった声をいただいたところでございます。実際にやってみたところですけれども、ご指摘のとおり、皆様の習熟度に結構差がございまして、URLを講師の先生のほうから皆様の方に公開して、開いていただくというような形で講義をしましたが、URLをパソコンに打ち込むというところでつまずく方が多くいらっしゃいます、やはり一定数できるような方について待機時間が結構多くあ</p>

	ったような形となっておりますので、できる限りグリーンカレッジホールの職員や私ども事務局のほうでそういったできない方といいますか、不慣れな方についてのサポートについては、事業の講義の途中も入らせていただいたところではありますが、どうしてもそういったところに時間をとられたというところが実際の結果となっております。
(委員)	ありがとうございます。カリキュラムの中に、これが使える人、これができる人を条件としますっていう書き方になっていましたが、そうであっても、そのレベルに達してない人がやっぱりいたってことですかね。申し込みが20人でそのうちの出席が10人ということだから、最初から少なかった。少なかった中でその半分が来たけども、その半分の中にもレベルに達してなかったなというのが現実だったってことですね。それが理由で、令和8年度はこういうカリキュラムは入っていませんよね。そのあたりが理由ですか。
(事務局)	そうですね。理由といたしましては、おっしゃいます通りそういった習熟度に差があるというところもございますし、また電源の確保であったりとか、施設のWi-Fiも多人数の使用には適してないような仕様となっておりますので、そういった課題も含めまして一度プログラミングという科目を来年度からITという科目に変更させていただきまして、施設側の体制の構築であったり、受講生の皆様の習熟度がある程度確立されてから、また改めてプログラミング等の実際に皆様に手を動かしていただくような科目を導入させていただこうというふうに考えております。
(委員)	はい。よくわかりました。やってみなくちゃわからない。出席した人たちはもちろん事務局の方も、やってみて初めて判明した難しさや問題、いろいろあったと思うので、それがわかつただけでも非常に有意義だったなと。そういうことで次回は改めてWi-Fi環境や電源をいろいろ検討の上、いつになるかは別として、次は改善した形でやっていただく。これを期待したいと思います。1回目は、そういういろんなことがあるのは何事でもあることですので、それを私はどうこう言うつもりはないので、むしろチャレンジいただいたことを評価したいと思います。ありがとうございました。
(議長)	貴重なご意見ありがとうございます。確かにこういうのも大学の中でアンケートをとって一定数不満はいますね。全くずれるけども、落語好きですけれどもやっぱり人気があるって僕としては面白くなかったとか、いろんな価値観があって、むしろ不満が出たぐらいの方が、何かこう活気があるのかなって気がしないでもないです。貴重な意見ありがとうございました。それと講師の選び方、この前先週来た時にお話を聞いたけども、いろんなところで講演をしている人とか講座をしている人をピックアップしてということでしたが、やっぱりそういう人でも不満が多いような授業する人もいるわけなの

	<p>で、そういうふうな調査もしっかりとして、講師の人選も必要なのかなと思っています。</p> <p>他に何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。また戻ってもいいですので続けていきます。続きまして、資料3「令和7年度板橋グリーンカレッジ専用ポータルサイトの導入」について説明を事務局からお願ひします。</p>
(事務局)	<p>それでは資料3の方ご覧いただければと思います。板橋グリーンカレッジ専用ポータルサイトの導入についてご報告をさせていただきます。8月に開催されました第1回の板橋グリーンカレッジ運営協議会において、DX化についてご報告をさせていただきましたとおり、板橋グリーンカレッジ事業については令和8年度から専用ポータルサイトを導入させていただきます。本日は、専用ポータルサイトの運用についてのご報告とさせていただきます。</p> <p>項目1をご覧いただければと思います。ポータルサイトで行う手続きと機能についてご説明をさせていただきます。まず、受講申込みと履修科目選択でございますが、これまで紙と電子フォームを併用して受付を行っておりましたが、令和8年度以降についてはポータルサイト上での電子申請に統一させていただきます。また、これまで履修科目選択は抽選とさせていただいたところでございますが、こちらについても先着順に変更させていただきます。各科目の定員については、教室の定員に合わせ144名とさせていただいているところでございますが、令和7年度で最も受講者数が多かった科目が芸術で141名となっておりました。先着順とした場合でも、多くの受講者にご希望の科目を選択していただける見込みでございます。これらの変更によりまして、これまで事務処理の都合上、お申込みいただいてから結果通知まで約1か月を要していたところでございますが、今後は1週間程度でご通知できるということで短縮をされる見込みでございます。</p> <p>次に、出欠登録でございます。これまで紙の受講証を使用して出欠確認を行っておりましたが、令和8年度以降は受講生がポータルサイト上で出欠登録を行っていただく運用とさせていただきますので、これによりまして、受付に並ばず自席で出欠登録を行うことができるということになります。</p> <p>次に、講義のアーカイブ配信でございます。令和8年度からテスト運用として、同一学年の講義のみご視聴いただけるように準備を整えさせていただきます。講義内容が著作権に抵触する恐れがある場合など、配信するが難しい科目についてはアーカイブ配信しない運用とさせていただきたいというふうに考えております。また、欠席時のフォローや履修科目数の制限についても受講生から意見を頂戴しているところでございますので、その対策としても効果を期待したいというふうに考えております。</p> <p>次に、事務局からの連絡でございます。事務局からの連絡についてもポータルサイトを利用して行う予定でございます。これまで受講生への連絡は講義冒頭で行っておりまして、また、欠席者には郵送や電話連絡を行っておりましたが、令和8年度からは講義冒頭の連絡と併せて、受講生への連絡</p>

	<p>事項をポータルサイト上に掲示するほか、ポータルサイトに登録いただくメールアドレス宛にお知らせのメールをお送りさせていただきます。また、災害時の休校のお知らせなど、緊急の連絡についてもポータルサイトを利用させていただき、迅速な対応を心がけてまいりたいと考えております。</p> <p>次に、裏面の資料配付や提出でございます。資料配布や受講生からのレポート提出について、ポータルサイトを利用して行う運用にしたいと考えております。これまで受講生からのレポート提出は、メールまたは紙での提出とさせていただいておりましたが、令和8年度からはポータルサイトでの提出に統一させていただきたいというふうに思っております。</p> <p>次に、受講生への支援というところの項目でございます。ポータルサイトの導入に伴いまして、受講生の支援についてのご説明をさせていただきます。まず1点目でございます。受講生向け操作説明会を開催いたしまして、ポータルサイトの基本的な操作方法についてご案内をさせていただきたいというふうに考えております。説明会は、履修科目の登録期間に合わせて開催する予定でございます。操作方法を説明するほか、実際に受講生で端末を操作していただく時間を設けまして、事務局で操作の補助させていただきたいというふうに考えております。説明会を欠席された場合には、事務局で隨時受講生に操作説明や補助を行いたいというふうに思っております。次に（2）スマートフォンやPCを持ってない受講生について、こちらの対応は従来通り、紙での申請という形で受付するということにさせていただきたいと思いま</p> <p>す。</p> <p>次に、項番3をご覧いただければと思います。ポータルサイト導入に伴いまして受講料の改定について、第1回運営協議会でも委員の皆様にご説明をさせていただき、皆様から様々なご意見をいただいたところでございます。いただいたご意見をもとに再検討させていただきまして、また受講料等の精査をさせていただいたところ、令和8年度の受講料については年間8,000円とさせていただきたいと考えております。第1回運営協議会では、受講生一人当たりの経費が12,000円程度かかっているというご説明をさせていただきましたが、その後、システムの契約等々を結んだ状況を踏まえて、改めて精査し算定しましたところ、ポータルサイトのシステム利用料が想定よりも削減されたというところもございまして、約1人当たり9,900円という結果となっております。こちらの経費から受益者負担をいただくという観点から、受講料については先ほど申し上げました8,000円という形で改定をさせていただきまして、今後お願いしたいというふうに思っています。受講料の改定につきましては、受講生の皆様への丁寧な説明を心がけていきたいと考えているところでございます。資料3のご説明については以上となります。</p> <p>（議長） ありがとうございます。資料3の説明が終わりました。ご質問、ご意見のある方はご発言ください。前回の委員会では、これが一番議論になったところでありますけども。何かご意見ある方お願いします。</p>
--	--

(委員)	<p>受講生の支援のところで、スマートフォンやパソコンを持っていない受講生への配慮、紙で出欠とか取ついらっしゃった受講生の方が、スマートフォン買ったとか、パソコンを持ちたかったという方に対しての、切り替えとかのフォローはどうなっていますか。</p>
(事務局)	<p>今の途中でという形ですかね。受講が始まって。</p>
(委員)	<p>そうです。従来通りの紙での申請から、スマートフォンとかパソコンを購入したと。それで、そのときの資料を登録するとか、設定する切り替えみたいなのはどうなっていますか。フォローは。</p>
(事務局)	<p>はい。そのあたりについては、その方のご希望によりましてというか、切り替えたいということであれば、その時点でこちらのほうでご説明して、個別に対応していきたいというふうに思っています。</p>
(委員)	<p>一人一人ですか。</p>
(事務局)	<p>そうですね。そこは一人一人なのか、まとめてなのかは。</p>
(委員)	<p>そういった窓口はどこにありますか。</p>
(事務局)	<p>グリーンカレッジホールの職員の方で随時受付をさせていただきます。紙から電子への切り替えというところですが、紙でご申請いただいた方についても、ポータルサイトについては、職員の方で紙であってもアカウント自体は作成させていただきますので、電子に切り替えたいということであれば、そのアカウントのIDとパスワードを受講生の方にお伝えさせていただいて、すぐに切り替えが可能な形となっております。</p>
(委員)	<p>わかりました。ありがとうございます。</p>
(委員)	<p>1点目は、先ほどWi-Fiの話がありましたが、パソコンを利用する方の多くはWi-Fi環境がないと使用できないのではないかと考えられます。また、スマートフォンの場合も、さまざまな事情からWi-Fi接続を希望される方がいると思いますが、その点についての環境整備や利用可否はどのようにお考えでしょうか。</p> <p>2点目は、ポータルを用いた出席管理、つまり受講登録についてです。このような方法では、実際に現場にいる人といない人の照合は行われるのでしょうか。例えば、参加率などに基づいて修了証書を発行する場合であれば重要になりますが、そうでない場合でも、実際に参加していても正しく登録で</p>

	きない方が出る可能性があります。そのため、少なくとも人数把握は行った方がよいのではないかと考えます。以上です。
(事務局)	補足としてご説明させていただきます。先ほど Wi-Fi というところですけれども、一応グリーンカレッジホールの仕様としては 50 名までは接続が可能な形となっておりますので、余りにも同時接続の方が多くない限りは接続できるような見込みとなっております。あと出席登録というところですけれども、ただボタンを押せばできるものとするわけではなく、パスワードのようなものをその教室の会場に貼っておきまして、パスワードを入力いただければ出席登録ができるような運用とする予定でございます。以上です。
(委員)	受講料を 10,000 円に上げようかと検討したけれども 8,000 円にしたという、2,000 円下がった分で諦めたサービス、見送ったサービスというのには何かありますか。
(事務局)	ご質問ありがとうございます。2,000 円下げたことについては、特に諦めたサービスとかそういうところはございません。また、先ほど申し上げました経費の部分が、当初見込んでいたよりも、入札の価格が大分大きく下がったというところもありますし、10,000 円に上げることについても、いろいろなご意見を前回いただきまして、やはり激変緩和じゃないですが、5,000 円から 10,000 円というのはやっぱり倍というところもありますので、なかなか受講生の方にご理解もいただきづらいのかなというところもありますので、そういうところも含めて事務局のほうで再度検討させていただいて 8,000 円という形で。8,000 円であれば受講生の方で割り返しても 10,000 円程度かかるというところでございますので、そこでそこにもさらに下げさせていただいたというところで、説明もご理解もいただけるのかなということで、この価格を設定させていただいたところでございます。
(委員)	ありがとうございます。最後に関連しますが、1 人当たり 9,900 円かかるとなると、1,900 円分赤字になるわけですよね。この赤字ってどういうふうな処理ですか。
(事務局)	1,900 円分については平たく言うと税金というか、区のほうで負担しているという形になります。区の受益者負担の部分の考え方をございまして、講座を開く際には、基本的には受講者の方に基本的な経費についてご負担いただくというふうな区の考え方があるのですが、その中ですべてを負担いただくのか、一部区のほうで負担するのかというようなものがございまして、グリーンカレッジ事業については、一部は区のほうでも負担するという形で事業を行っていくということで、財政当局等ともいろいろと検討させていただいた結果、この内容で落ち着いたというところでございます。

(委員)	<p>ありがとうございます。</p>
(委員)	<p>区のほうでとおっしゃっても、私の税金からですよね。違いますか。</p>
(議長)	<p>そういう議論って結構あるけども、こういうもので区民全員に区報とか、そういうところで広報をしているのであれば、全員がこれに応募する機会があるという意味では特に問題はないと思います。そういうふうな考え方をしたほうがいいと思います。全く閉ざされたところで、利益を得るような講座であるとかっていうとまた問題だけども、しっかりと広報しているという意味では、問題ないと僕も思います。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。議長もおっしゃっていただいた通り、区民の皆様全員が対象とさせていただいた講座で、募集をかけさせていただいて、広報等いろんな区民の方皆様に知つていただくような形でご提供させていただいた結果でございますので、そういう意味では一部区で負担するという考え方も、いろいろな構造になっているすべての事業について、この考え方を持ってあたっているというところもございますので、ご理解いただければと思います。</p>
(議長)	<p>それと申し添えますが、先週来てくれたときに、区の方が比較的フィジカルな、健康とかというのはすごくお金を使うけれども、こういうグリーンカレッジというのは、ある意味では心の健康というか、頭を使うという意味ですね。心の健康という意味では、そういうフィジカルな運動とかとイコールにして欲しいなと思っていますと言つたと思うけども、やっぱりこういう捉え方ってとても大事だと思いますので、そういう意味では、このグリーンカレッジも健康と関わっていることを広報して欲しいなと思っています。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。その辺も踏まえて、今後周知に努めてまいりたいと思います。</p>
(議長)	<p>他に何かありますか。むしろこんなふうにここの委員で下げたほうがいいってことが通つたのはちょっと奇跡的だなと思っていますけども、いろいろしてくださったと思います。ご尽力ありがとうございます。</p> <p>それでは続きまして、資料4「令和8年度板橋グリーンカレッジ受講生募集」について説明を事務局からお願いします。</p>
(事務局)	<p>それでは、資料4をご覧いただければと思います。令和8年度板橋グリーンカレッジ受講生募集についてご説明をさせていただきます。令和8年度の変更点といたしましては、聴講生の募集を今まで100名とさせていただいた</p>

	<p>ところを、令和8年度については130名というかたちで増員とさせていただいております。これまでも聴講生の定員につきましては、2年生の受講者数に合わせて調整させていただいたところでございます。今年度定員を超えた184名の聴講生に受講いただいておりまして、2年生の各講座の定員もまだ余裕があるという状況もございますので、令和8年度からは聴講生の定員を30名増員させていただいても問題ないかなというところでございまして、130名とさせていただいたところでございます。次に、募集日程でございますが、令和8年1月17日号の広報いたばしに掲載させていただき、同日から募集を開始する予定でございます。区ホームページでも掲載させていただく予定です。説明については以上でございます。</p>
(議長)	<p>ありがとうございます。資料4の説明が終わりました。ご質問、ご意見のある方はご発言ください。よろしいでしょうか。また最後に戻って質問がある方はしていただきますので先に進みます。</p>
	<p>続きまして、協議事項の説明を事務局からお願いします。</p>
(事務局)	<p>資料5をご覧いただければと思います。令和8年度前期カリキュラムについてご説明をさせていただきたいと思います。資料5-1「板橋グリーンカレッジ大学校1年生講座一覧」というところでございます。</p>
	<p>まず、1年生から説明させていただきます。1ページ目をご覧いただければと思います。令和8年度は、令和7年度に引き続き年間23講座を実施する予定でございます。受講生は、前期は12講座から9講座、後期は11講座の中から9講座選択いたしまして、年間18講座を受講することができます。今年度から新しく取り入れた科目といたしまして、2ページ目の講座番号8のIT「A.I時代の情報リテラシー～データを読み解く力と活用の心得～」でございます。成蹊大学 理工学部理工学科 准教授の山野井 瞳 先生にご登壇いただきまして、A.Iが活用されるようになった現在の情報リテラシーの活用術についてご講義いただく予定でございます。ちょっと戻りますが、講座番号3「経済」の東京経済大学 経済学部 教授 野田 浩二 先生、講座番号5「絵本」の駒澤大学 総合教育研究部日本文化部門 教授 内藤 寿子 先生。また、講座番号6「法律」の東京都行政書士会 板橋支部 副支部長 花谷 好信 先生、講座番号7「芸術」の武蔵野美術大学 通信教育課程芸術文化学科 准教授 川村 笑子 先生。次のページでございますが、講座番号9「健康」の東洋大学 生命科学部生物資源学科 准教授 三浦 健 先生、講座番号11「科学」の東京都立大学 理学部生命科学科 教授 川原 裕之 先生に初めてご登壇いただくようになっております。</p>
	<p>続きまして、資料5-2の2年生の講義内容についてご説明をさせていただきたいというふうに思います。2年生につきまして、前期後期とも9講座の中から3講座を選択いたしまして、年間6講座を受講するすることができます。2年生では、生涯学習を促進する多種多様なテーマについて、より</p>

	<p>専門的な内容を学ぶため、各講座3回の連続講座とさせていただいているところでございます。講座番号1「メディア」跡見学園女子大学 文学部元教授副島 善道 先生。また、講座番号3「法律」さわべ総合司法書士事務所 代表司法書士 沢部 隼 先生。講座番号4「絵本」武蔵野大学 教育学部幼児教育学科 准教授 今福 理博 先生、講座番号5「歴史」帝京大学 文学部日本文化学科 准教授 渡邊 公太 先生。講座番号8「社会」法政大学 現代福祉学部福祉コミュニティ学科教授 高良 麻子 先生。講座番号9「芸術」大東文化大学 文学部日本文学科 助教 廣田 龍平 先生に初めてご登壇いただくというふうになっております。</p> <p>続きまして、大学院についてのご説明をさせていただきたいと思います。資料5-3をご覧いただければと思います。文化文学コースについては「哲学を実践する」をテーマに、西洋哲学について演習を交えてのご講義をいただくようになります。次に2ページ目でございます、社会生活コースについては「暮らしを見つめる～持続可能な社会づくりを目指して」をテーマに、社会課題や地球規模の問題について日々暮らす中で私たちに何ができるかを考えるご講義をいただきます。最後に3ページ目でございます。健康福祉コースでございますが、「つながりと健康格差」をテーマに、健康と地域の繋がりの関係についてご講義いただきます。資料5の説明については以上になります。</p>
(議長)	ありがとうございました。資料5の説明が終わりました。ご意見、ご質問ある方はご発言ください。
(委員)	<p>大学院に関してですが、夏の協議会とか1年前の協議会で配られた資料の中に、大学院終了後に学びの循環に結びついていない。それの対応として、大学院修了者が1年間で学んだ内容を、対外的に生かしていくための受講生への意識づけが求められる。と書いてありますけど、これをちょっとわかりやすく説明していただきたいなというのが1つ目です。</p> <p>大学院の課題というのが3つ書いてある、そのうちの3項目ですね。大学院終了後に学びの循環に結びついていない。そこでの対応として、大学院修了者が1年間で学んだ内容を、対外的に生かしていくための受講生への意識づけが求められる。とあります。</p>
(事務局)	前回の資料の確認させていただきました。大学院で学んでいただいた方について、学びの循環というか、学んだことを地域やいろんな方に還元していくというような形を考えていただく意識づけというか、大学院で学んだことをどういった場で活用しようかというようなことを考えていただく。意識づけというのをお願いして植え付ける。というところを、本来だと大学院ではやっていかないといけないのかなというところでございますが、なかなか運営側の方から、大学院の受講生の方に終わった後にどう地域に還元していく

	うかという意識づけができていなかったところを課題感として認識しているところでございますが、そこについてどう解決していこうかというところがまだ事務局側としてまだ答えが出ていないと。いずれにしても、今言った求められるというところは、ご自身が学んだ後に学んだことを地域とか、いろんな方に還元していくのかということの意識をつけて、卒業していただきたいなというところを課題として持っているというような説明になります。
(委員)	ということは、求められているのは受講者が求められているのですね。
(事務局)	そうですね。受講者もそうですし、あと社会としてもせっかくこういったグリーンカレッジで学んだ方について、やはり社会教育の施設でございますので、学びの循環というところが求められる施設ですから、ご自身だけで学んでそこで全て完結するだけではなく、ご自身で学んだ上にさらにそれをいろんな方に繋げていくというか、いろんな社会に繋げていくのか、地域に繋げていくのか、他のそういったことを求めている方に繋げていくのか、いずれも、学びの循環として自分で学んだことを自分で消化するのではなくて、いろんなことに繋げていくような形を、システムというか意識づけしていくことを目指している施設ですので、そういったところを課題感として持っております。
(委員)	趣旨はわかりますが、理想論であって、現実に、去年と今年も大学院を受講していますけれども、そういう意識での授業、それから講師の方からの誘導というのも全然感じていません。それをここでうたっても、何をどうしたらいいのかわからないなというのが正直なところです。まだまだ事務局の方のほうでもよく練り込めてないというのであれば、それはそれでいいです。今後練って何か具体的なものが出来たら、示していただければいいなと思っています。
(事務局)	ありがとうございます。確かにおっしゃっていた通り、まだ事務局でもそうですし、先生方についてもどういった方向でいこうかというところが、まだ全体的に練りきれてないのかなというところがございますので、そこは課題感として捉えておりますので、今後、そこについて来年度なのか再来年度になるのか、またこの運営協議会の中でお示しをさせていただきたいなというふうに思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。
(議長)	僕のほうからいいですか。大学院の受講者たちが、こういうことをしたいとかそういったような意見が述べられるような機会っていうのはありますか。
(委員)	あります。

(議長)	<p>例えばそういうところで、私は講座を受けて掘り下げて、いろいろと学んだことをどこかで発表したいとかね。それが中学校でもいいし、高校でもいいし、あるいはグリーンカレッジの中でもいいし、そういうようなことが循環だと思うけれども、いずれもそういう大学院の中の意見を募って、進めていけばまた1つの何か方向が見えるのかなって気がしました。</p>
(委員)	<p>発表のチャンスは全員に求められていますから。1月に発表がありますけど、その発表は7分間です。それとは別にレポートを提出する。それが終わっちゃうとああ終わったと。それ以上続けて、さらに掘り下げてやろうっていう人はいないとは言いませんけども、すごく少ないと私は思います。少なくともしようがないですが、それを掘り下げて、かつどこかで別のところで発表することをチャレンジしてみようとか、そういうようなものって受講者個人1人ではね。なかなか無理な話ですね。だからこの辺も、なにかそういうファシリティを考えていただいて、それに乗っかるならできますけど、ファシリティを考えるとなるとこれは難しいなと思います。</p>
(議長)	<p>最近、課題探究プログラムってすごく流行っていて、グループを作って1つのテーマとかを掘り下げていって発表してっていうのがすごく流行っていますけども、そういうふうなことが何か1つの循環にもなりうるかもしれない、そういうことも含めて、今後生涯学習課の方とか、あるいは大学院の方の意見とか募りながら進めていけばいいのかなって気がしました。</p>
(委員)	<p>今のお話を受けてですが、例えば大学院を修了した方が継続して学習できる研究会があれば、そのような場を開催することが考えられます。継続的に研究を行うことも、あるいは参加者全員でテーマを設定して深めていくことも可能です。</p> <p>こうした継続学習のグループを、自立した形で運営していただくことを前提とすると、学校等への出前活動にもつながると考えられます。そのため、継続学習を促す研究会や組織を立ち上げ、場所を提供するとともに、必要に応じて講師の先生に半期に1回や2～3か月に1回程度ご指導いただく、といった取り組みも今後検討されると良いのではないかと思います。以上です。</p>
(委員)	<p>それに関連しますと、今おっしゃったのは大変有効なやり方だと思いますが、私自身も含め大学院に加わっている受講者の人たちとの話の中でも、私大学院7年目ですとか、私は2回目です。そういう方が結構多いです。何でそんな長いの？というと、大学院が終わった後にやることがないって言いますね。そうすると、その翌年度に3つあるコースのうち、じゃあこれをやってみようかとか、それを続けて7年来たという感じです。例えば、自分のレポートの研究が今年はここまでしかできなかつたけども、もうちょっと時間</p>

	があれば、もうちょっと先生からのアドバイスもらえたなら、もっと深く出来るのに。とか言う人もいると思うし、私自身も私のテーマについて中間のレポートとしてはここまでだなと。この先もやりたいけど、やるチャンスもないかもしれないなっていう感じのものを、今サブジェクトとして持っていますね。だから、そういうのを生かせる場を作っていただくとか、それはそんなにたくさん的人が出てこないと思いますけれども、やってみたいなっていう人は 10 人や 15 人は出てくるのではないか。私のこれまでの同級生との雑談の中で感じていますね。私の意見です。
(議長)	ありがとうございます。他に何かありますか。
(委員)	ありがとうございます。大学院の関連でちょっと 1 点お伺いしたいのですけれども、前半で、グリーンカレッジ大学校 1 年生と 2 年生の講座の満足度のアンケートの結果はお示しいただいたかと思いますけれども、これまで見落としていたら恐縮ですが、大学院の方の満足度などというのは、調査というかアンケートなどされておりますでしょうか。
(事務局)	ありがとうございます。大学院の方については、全課程終了後にアンケートをとるかたちになりますので、今回は前期だけというかたちで 1 年生、 2 年生のアンケート結果をご報告しましたので、全課程の終了後にまたアンケートを取りまして、第 1 回のときにご報告させていただくかたちになろうかと思います。
(委員)	昨年の 7 月はあったということでしょうか。あとで確認をしたいと思います。
(事務局)	すみません。アンケートをとってはいますが、私の勘違いで、第 1 回のときにお示しをしていないようですので、そのあたり事務局の方で皆様にお知らせをしたほうがいいかなと思いますね。受講状況というかたちでの報告だけはさせていただいていますが、アンケートの部分はお示しをしていないようですので検討させていただきます。
(委員)	ありがとうございます。ちょっと人数もあまり多くないということなので量的にまとめるのが難しい部分もあるのかなと思いつつ、やはりカリキュラムの見直しにあたり、アンケートの結果というのは非常に参考になるものかなと思いますので、ぜひ次のタイミングで、お示しいただければと思います。
(議長)	ありがとうございます。僕もこの講座を 4 回ほど経験したことがあって、その中で最後の 1 回だったかな。東武練馬駅のすぐそばにある、キャンパスじゃないけれども、大東文化会館っていうところがありまして、そこで講座

	<p>をしました。いつもここでやっている方々が、大学の施設に、一応コロナ禍で、僕は学食をみんなに食べてもらいたいなと思ったけども、ちょっとそこが叶わなかったのですけど、今後でもそういうようなここでだけじゃなくて、場所を移してキャンパスで講座を受けるとかね。そういうのを工夫すると、また少し刺激があるのではないかなと思いました。僕はどうぞどうこうじやなくて、講師の先生方に聞いてみればいいことなのでそれほど難しいことはないと思いますので、今後そういうことができれば面白いのではないかなと思って拝見しました。</p>
(事務局)	<p>ありがとうございます。確かにすごくいいご提案だと思っていますので、またどこかでそういう形で、ご協力もいただけるというところもございますので、講師の先生にご相談させていただきながら、できる範囲でやらせていただきたいというふうに思います。ありがとうございます。</p>
(議長)	<p>それこそ大学院も少人数であれば、それはそれでキャンパスの中で講座を受けるとかっていうのは面白いかもしれません。</p> <p>それでは、協議事項についてこれで承認とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。</p> <p>それでは、本日の協議会は以上で終了とさせていただきます。事務局にお戻しいたします。</p>
(委員)	<p>その前に全般的なことで。参考1と参考2で、運営要綱と実施要領がついていますが、実施要領は令和7年1月だからこれはまだ生きていますよね。もう1つのほうは、運営要綱は令和4年3月ですが、これは生きていますか。</p>
(事務局)	<p>運営要綱などについては、決定した日を入れさせていただいておりまして、中身については今でも有効です。</p>
(委員)	<p>今も生きているのですか。なるほど。質問は、聴講生の扱いが、令和4年の運営要綱のほうには聴講生はこれって書いてあって、令和7年のほうには聴講生というのが脱落しているというか、なくなっちゃっていますね。聴講生制度っていうのはまだ今でもやっているのですか。</p>
(事務局)	<p>聴講生制度についてはやっています。もしかすると、参考2の方については、令和7年度のところでの実施要領というのをお示しさせていただいていますが、数の中に含めてありますね。いずれも聴講生制度というのは生きていますので、それについては、わかりやすいように定めていきたいと思います。</p>
(委員)	<p>ありがとうございます。次の質問は、この令和4年のほうの第9条で、聴</p>

	講生は大学校2年目の講義を聴講できると書いてあるのですけど、大学校1年目のコースは聴講できないですか。
(事務局)	そうですね。2年目のコースは聴講できます。
(委員)	2年生の方が聴講できる。それから、大学校の卒業生のうち、あと大学院の卒業者のうち継続学習を希望するものは、大学校2年目のコースの講義を聴講することができる。質問する理由は、私自身のことを踏まえて、大学院3コースから1つ選ぶか、それから新しい大学校のカリキュラムが以前と違って、講座のコマを自分で選べるし、興味あるものって案外ありますね。また私が戻って、大学校の聴講を申し込んでもいいのでしょうか。
(事務局)	そうですね。そういった意味では、この規定でいきますと、大学校に戻つても大丈夫です。聴講生として2年生を受講することができます。
(委員)	1年生はダメですか。
(事務局)	1年生の場合は、新たに入学し直していただくという形になるかと思います。
(委員)	入学し直してもいいのですね。
(事務局)	入学し直すのは大丈夫です。
(委員)	2回目の入学でも構わない?
(事務局)	大丈夫です。
(委員)	はい、わかりました。
(事務局)	どうも皆様ありがとうございました。本日の皆様からいただきましたご意見をもとに、またさらに事務局のほうでもブラッシュアップするかたちで検討してまいりたいと思います。ありがとうございました。さて、事務局からのお知らせでございますが、板橋グリーンカレッジ運営協議会委員の皆様の任期でございますが、今年度までというふうになっております。来年度は改選の時期でございますので、最後に一言ずつ皆様からご挨拶を頂戴できればと思います。

～委員挨拶～

(事務局)	ありがとうございました。議長及び委員の皆様におかれましては、この運営について多大なるご貢献をいただき誠にありがとうございました。以上をもちまして、令和7年度第2回板橋グリーンカレッジ運営協議会を閉会させていただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。
-------	--